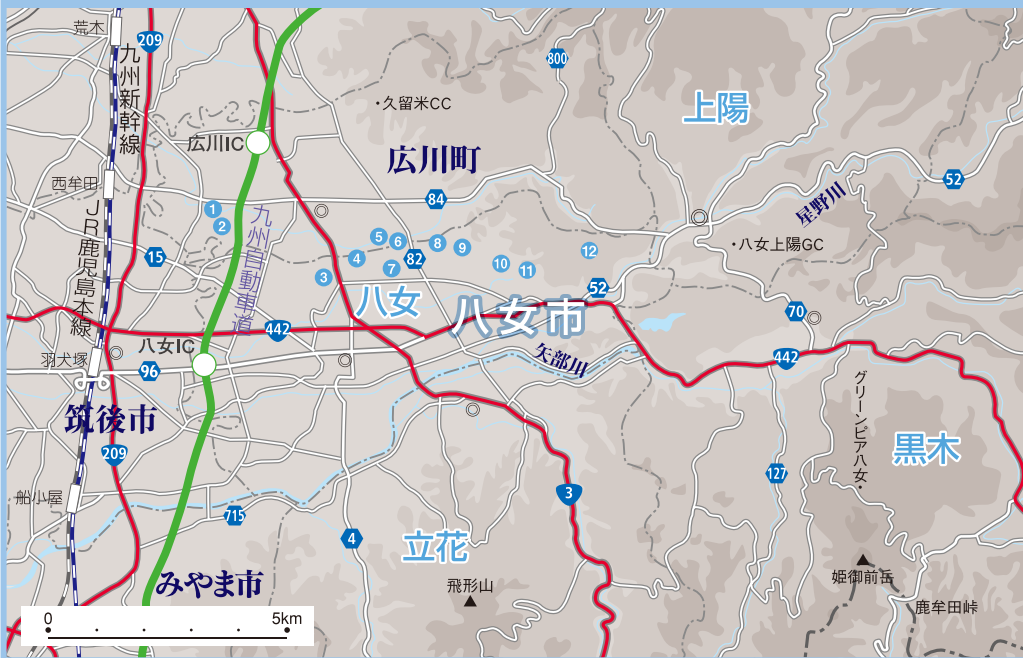


観る知る学ぶ 八女は楽しい



- ① 石人山古墳(国指定史跡)
- ② 弘化谷古墳(国指定史跡)
- ③ 岩戸山歴史文化交流館、岩戸山古墳(国指定史跡)
- ④ 乗場古墳(国指定史跡)
- ⑤ 善蔵塚古墳(国指定史跡)
- ⑥ 茶臼塚古墳(国指定史跡)
- ⑦ 丸山塚古墳(国指定史跡)
- ⑧ 鶴見山古墳
- ⑨ 釘崎古墳群
- ⑩ 立山山古墳群
- ⑪ 丸山古墳(国指定史跡)
- ⑫ 童男山古墳(国指定史跡)

福岡市内からの日帰りモデルコース

9:00~	福岡市内 出発
	九州自動車道→広川インター
	広川町古墳公園資料館、石人山古墳①、弘化谷古墳②
	岩戸山歴史文化交流館・岩戸山古墳③
12:10~	昼 食
	八女福岡の町並み、八女伝統工芸館、八女市横町町家交流館
	八女古墳群④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
	童男山古墳⑫
	八女インター→九州自動車道
18:00~	福岡市内 帰着

八女市中心部への
交通アクセス

【JR】博多駅→羽犬塚駅→堀川バス→八女市内
【西鉄】福岡駅→久留米駅→西鉄バス→八女市内
【お車でお願いの場合】
○九州自動車道経由:八女インターを下りて約10分
○九州自動車道経由:広川インターを下りて約20分



古代史の大事件、
「磐井の乱」。
もしもヤマトに
勝っていたら：



つくしのきみいわい
筑紫君磐井に
会いたい

八女市観光振興課 TEL.0943-23-1192

〒834-0031 福岡県八女市本町2-129

大王^(おおきみ)に匹敵する 巨大な前方後円墳

— 継体天皇^{つぐしのかみ いわい} 200m、筑紫君磐井 170m —

前方後円墳は教科書で見えるものだと思っていませんか？

近畿地方だけにあるものだと思っていませんか？

実はここ九州にも、大きな前方後円墳がたくさんあります。

北部九州の中でもずば抜けて巨大な前方後円墳が「岩戸山古墳」。

筑紫君磐井が築いたものといわれています。

磐井と同じ時代に生きたヤマトの大王(おおきみ)継体天皇のそれと、

遜色のない大きさです。

筑紫君磐井とは、どんな人物で、どんなドラマの主人公だったのでしょうか。

磐井^{せきじんさん}(筑紫君)一族の繁栄は 「石人山古墳」からスタート

この地方に突如巨大な前方後円墳が築されました。それが広川町の「石人山古墳」。年代から考えて、磐井の祖父の墓ではないかといわれています。石室に置かれた「家形石棺」とその前に立つ「武装石人」は有名で、どちらも重要文化財です。

磐井、一族の絶頂期を迎える

磐井の時代に一族の繁栄は絶頂期を迎えます。財力・軍事力・多くの人を動かす動員力をすべて手にした磐井は、巨大な自分の墓、「岩戸山古墳」を生前に築きました。6世紀前半だけを見ると、磐井より大きな古墳は、継体天皇の前方後円墳ほかわずか。磐井の力がわかります。

「磐井の乱」の敗北と その後の生き方

527年にヤマト王権に対抗。古代史上の大事件「磐井の乱」です。翌年、磐井が敗れると、九州の豪族の力は急速に衰えます。しかし筑紫君一族は、ヤマト王権に支配される中で生き延びるために火の国と婚姻関係を結ぶなどして、手を組みながら生きていったのです。

※岩戸山古墳の大きさは周堤及び別区を含んだ数値です。

磐井、海を駆ける

～ 外交の証、新羅の金製品 ～

磐井は大陸との交流を持っていました。

当時の交通は海路。船を造り、船を操る者が、強い者でした。筑後川、有明海を通じて大海を渡り、大陸と行き来しました。百済と深い関係を持っていたヤマト王権とは違い、新羅との独自の交流ルートを持っていた磐井。

やがて朝鮮半島を統一する黄金文化華やかな新羅との間を、独自に、堂々と行き来したのでしょう。

金製垂飾付耳飾 (立山山8号墳出土)

八女古墳群からは朝鮮半島製と思われる副葬品が出土する。この金製耳飾は、筑紫君一族と半島との緊密な関係をうかがわせる。岩戸山歴史文化交流館に実物が展示されています。

新羅の黄金文化

磐井と深い関係を持っていた新羅は今の慶州のあたり。慶州は屋根のない博物館と言われ、きらびやかな金の装飾品で有名。韓国の歴史ドラマの中でも時折、見かけることがありますね。



“船師”は強者のキーワード

磐井をはじめ北部九州の豪族たちは、弥生時代から海を制し、大陸の中国や朝鮮半島と交流をもっていました。特に、鉄を生産し豊かだった伽耶諸国や、高度な文化を誇る中国との交流は意義深いものでした。ヤマト王権に比べ有利な地の利を活かしたのです。

もうひとつのポイントは船師。船を造る「造船技術」と、船を操る「航海技術」は高度な先進技術でした。それらを手に、目の前の有明海から大海へ出て行ったのです。

[東アジアの時代背景]

日本	朝鮮半島	中国
		殷/周/秦
B.C.		前漢
		新
A.D.		後漢
100		
200	原三国	三国
300		西晋
400	古墳	東晋 五胡十六国
500	新羅 百濟 高句麗	南北朝
600		隋
700	飛鳥	
800	奈良	唐
900		
1000	平安	五代
1100		北宋
1200		
1300	鎌倉	南宋 金
1400	南北朝	元
1500	室町	明
1600	安土桃山	
1700	江戸	清
1800		
1900		
2000	近・現代	近・現代

磐井たちが活躍した時代は、東アジア全体が激動の時代。朝鮮半島では高句麗・百済・新羅(こうくり・くだら・しらぎ)の三国が覇権を争い、やがて新羅は唐(中国)と手を結び、朝鮮半島を統一していきました。

九州独立を目指した 「磐井の乱」

527年、「磐井の乱」がおきました。日本はまだ統一国家ではなく、有力豪族が各地を治めていました。ヤマトと地方豪族は対等でありながらゆるやかな上下関係にあり、九州の豪族たちは、朝鮮半島への進出をめざすヤマト王権から、人や船や食糧を提供させられ、不満がたまっていきました。軍事・外交・内政すべてに自立し、財力も持つ磐井は、ついに火の国、豊の国と力を合わせ、立ち上がったのです。しかし磐井は敗れ、この後に急速にヤマトの国家統一が進みました。「磐井の乱」は日本古代史上の大事件だったのです。

日本初の裁判は磐井が!?

写真の広場は「別区」。一辺43mもある大きな正方形となっており、全国でも岩戸山だけの珍しいもの。別区は政治の場で、「解部」（ときべ）という裁判官が、「偷人」（ぬすびと）が猪を盗んだ罪を裁いたと『筑後国風土記』（逸文）にあります。大陸文化に詳しい磐井が取り入れた最先端文化だったのでしょうか。

「磐井の乱」とは・・・

527年に始まり、翌528年ヤマト王権により鎮圧された日本古代史上最大の内乱と言われています。

朝鮮半島の西南部の国「百済」を助けるため、ヤマト王権が大きな軍事的負担を強要した事に強い不満をもった九州の諸豪族が「筑紫君磐井」を盟主として結集し、起こした反乱であると伝えられています。

しかし最近の研究では、ヤマト王権からの圧力に耐えかねた磐井を中心とした豪族たちが、自らの権益を守り、ヤマト王権からの独立を目指した「独立戦争」と考えられるようになり、「磐井の戦」と呼ばれる意見も多数見られるようになりました。

磐井は反逆者？郷土の英雄か

古事記や日本書紀に磐井は「天皇の命令に従わない悪者」として記されています。本当にそうなのでしょうか。

ヤマト王権は度重なる朝鮮半島進出のための負担を九州の豪族に強要しつづけました。

乱に加わった「火」の国（現在の熊本県）、「豊」の国（現在の大分県）も同じ思いだったのでしょうか。出兵により疲れ荒れ果てていく地元の人々や土地を見て、我慢の限界が来たのでしょうか。ついに磐井は九州の諸豪族と共にヤマト王権に対し反旗をひるがえしたと記されています。

自国の荒廃ぶりを目の当たりにし、磐井は何を成そうとしたのでしょうか。

ヤマト王権から見れば「命令に従わない悪者」に映ったのだと思いますが、八女の地を守り、九州を守ろうとした磐井は、やはり郷土の英雄だったのではないのでしょうか。

※石人石馬はレプリカです。
（実物は岩戸山歴史文化交流館展示室において展示）

磐井敗れし後… 「筑紫君一族のその後」

1年半もの長きにわたり、戦い続け疲れ果てた磐井率いる筑紫連合軍。しかし、ヤマトの軍勢も状況は同じ、皆疲れ切っていました。

528年11月、磐井の軍勢とヤマトの軍勢は御井郡(今の福岡県久留米市)付近で最終決戦を行いました。

しかし、磐井は敗れ、九州の地にヤマト王権の支配が及ぶようになりました。

主なきあとの一族は、そして八女の人々はどうなっていったのでしょうか…。

乱後の八女には磐井の息子である葛子を中心に一族の姿は健在でした。岩戸山古墳の後に造られた鶴見山古墳などの大型前方後円古墳の存在は、これを証明しています。九州を、そして八女の地を守ろうとした磐井の遺志は、着実にその息子たちに引き継がれていたのです。

鶴見山古墳

磐井の行方は…

戦いに敗れた磐井は、「古事記」や「日本書紀」には切り殺された」と記述されています。しかし、これら記紀は戦いの勝者であるヤマト側の立場を重視して書かれたものです。これに対し、「筑後国風土記」(逸文)には、磐井は豊前の国上膳の県(かみつみけのあがた:現在の豊前市周辺)に逃れた」と記述されています。豊前市周辺には当時新羅からの帰化人が居住していたとも言われており、信ぴょう性の高い内容が一部含まれています。

また、磐井が逃れた経路の一部と思われる大分県日田市に所在する天満二号墳からは、筑紫君の象徴である「石人」の一部と考えられる石製品が出土していることから、筑後国風土記(逸文)の内容がある程度史実に即して記されている事を裏付けています。

磐井一族のその後…息子“葛子”は

戦いに敗れた磐井とその一族は、その後どうなったのでしょうか。

かつて磐井は、玄界灘に面した地域「糟屋」(かすや)に支配地を持ち、朝鮮半島南部と直接往来できる拠点として対外交渉を行っていました。「日本書紀」によると、磐井の息子“葛子”は父親の罪に連座する事を恐れ、この地をヤマト王権に差し出した、とあります。ヤマト王権からすれば貿易を独占するために、ノドから手が出るほど欲しくてたまらない地であったようです。

罪を許された“葛子”他の息子たちは、父磐井の遺志を引き継ぎ、筑紫君一族として筑後国一帯を治めています。

この“息子たち”が築いた古墳が、現在の乗場古墳・善蔵塚古墳・鶴見山古墳であると考えられています。

ヤマトから物部(もののべ)氏がやってきた

ヤマト軍の将軍は、物部麤鹿火(あらかひ)でした。乱の後、物部氏がこの地域に移り住んできました。物部ゆかりの地名や神社の名前などが多く残っています。また、物部たちが住み着いたのはどこも、磐井たち元の権力者を監視できる場所でした。こうして次第に九州は、ヤマト王権に直接的に支配されていったのです。

主を守る「石人・石馬」、 黄泉の世界を彩る「装飾壁画」

死者を祀る世界でも、ここでは独特の文化が花開きました。古墳の周りには埴輪を並べるのが一般的ですが、筑紫君一族の古墳には代わりに石の彫像が並びました。磐井の乱の後、ヤマトから来た兵は、怒りゆえか、恐れゆえか、石人たちを叩き壊しました。地上から石人が消えた後、ひっそりと古墳内部の石室で、装飾壁画が花開きます。石人石馬。装飾古墳。独自性を持つことをやめなかった先人の誇り高き心が伝わるようです。



▲武装石人頭部
(伝 岩戸山古墳)



▲武装石人
(鶴見山古墳)

手足の欠けた石人

ヤマトの兵は乱の後、ほとんどの石人・石馬の手足を打ち落としました。墓の主を守る石人が何も出来なくなるように、でしょうか。もともと赤や緑で鮮やかに塗られた大きな石人は、ヤマト軍の目には異様に映ったでしょう。

— 古墳を彩り、護る — 「石人・石馬」

関西地方を中心として日本全国に広がる大半の古墳には、それを飾るために土で出来た埴輪を並べたのに対し、筑紫君一族はあえてそれを採り入れず、地元の石で作った「石人・石馬」を立て並べました。広川町の石人山古墳に立つ「武装石人」は、その最初の頃の石人です。

「石人・石馬」を立て並べた一番の理由は、ヤマト王権とは全く異なる立場を「埴輪と石人」で表現し、王権からの独立を目に見える形で表現したかったからなのです。

土製の埴輪は10数年位で壊れてしまいますが、石人・石馬は石で出来ているので100年位では壊れません。

ここにも、一族の思いの強さが出ているようです。

黄泉の世界がここに!「装飾壁画」

磐井の乱が終わる頃、九州にまた新たな文化が生まれます。死者の眠る石室内を鮮やかな色や、様々な文様で描く「装飾壁画」です。九州は装飾古墳のメッカで、日本全国に約660基あると言われる内の半数以上が集中しています。

その色づかいや文様は、古代人の思いが込められたもの。眺めていると、古代八女人の「あの世」に対する考え方が伝わって来るようです。



▲丸山塚古墳



▲乗場古墳

巨石の謎、 「童男山古墳」 どうなんざん

耳納連山の南側の裾野に、八女丘陵はなだらかに続きます。この小高い丘に筑紫君一族の古墳が累々と続き、さながら「王家の丘」。その東の端、一族のほぼ最後の墓が、童男山古墳です。ここは全国でも珍しい巨石古墳。石室の内部は天井まで届く大岩が壁を成し、崩れ落ちた羨道(入り口部の廊下)の巨大な天井石が、江戸時代から動かすこともできず入り口前の広場にあります。どうやって、こんな巨石を丘の上まで運んだのか、今も謎のままです。

1月20日は「童男山ふすべ」 徐福伝説が残る祭り

秦の始皇帝から不老不死の薬を探そう命じられた徐福が嵐で遭難。命からがらこの地にたどり着き、手厚い介護の甲斐なく息を引き取り童男山に葬られたという伝説があります。伝説に基づくこの祭りで、小学生たちが温かな人間愛を思い、徐福伝説の紙芝居を上演します。



まるで「王家の丘」!? (八女古墳群)

八女丘陵に10数kmに渡り累々と筑紫君一族の古墳が続きます。12墓の前方後円墳と300墓以上の小さな円墳。童男山古墳群はその東端にあります。

おくつき 筑紫君一族の奥津城「八女古墳群」の 最終末を飾る「童男山古墳」

直径48mもある巨大な円墳である「童男山古墳」。身の丈よりもはるかに大きな巨石を組み上げた巨大な横穴式石室は、福岡県下で3番目の大きさを誇っています。内部には、熊本県・チブサン古墳や広川町・弘化谷古墳と同じ立派な石屋形(石棺を囲む屋根付の施設)があり、中には大型の石棺がおさめられています。まさしく、筑紫君一族の王の墓にふさわしい内容となっており、非常に大きな労働力を動員できる人物のなせる技です。



▲石屋形と石棺(童男山古墳)

※石室内・石屋形・石棺

全てに赤色顔料(ベンガラ)が塗られています。これは悪霊から被葬者を守るためのもの。「赤」という色に古代の人は強い力があると信じていたようです。

古墳の終焉とその後

童男山古墳を最後に、筑紫君一族の築いた古墳は姿を消し、約200年間続いた八女古墳群はその役目を終えます。全国的に見れば、この時代は仏教伝来の頃。各地の豪族たちは古墳を築くのをやめ、寺院の建立に力を注ぐようになります。残念ながら、八女では未だ寺院跡は発掘されていませんが、近い将来見つかるかも知れませんね。

岩戸山歴史文化交流館 「いわいの郷」、岩戸山古墳

【入館料】
無料

【施設使用料】
有料
(詳しくは当館HPをご覧ください)

〒834-0006 福岡県八女市吉田1562-1(裏表紙MAP③) / TEL:0943-24-3200
開館時間:9時~17時15分 / 休館日:月曜日(祝日の場合はその翌日)・年末年始

北部九州最大の前方後円墳である「岩戸山古墳」。この古墳の北側に平成27年11月、新たに岩戸山歴史文化交流館が開館しました。九州古代文化のシンボリックな存在である「石人・石馬」はその多くが国の重要文化財に指定されており、郷土の英雄「筑紫君磐井」を超然と守り、凛として立つ姿を見られる施設は、全国でもここだけです。



岩戸山歴史文化交流館

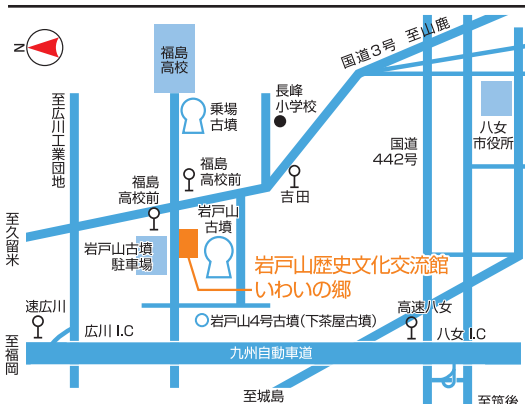


館内は、1500年前にタイムスリップしたみたい。

見る・知る・ やってみる!

歴史文化交流館では考古資料の展示のほか、年間を通じて各種体験事業を実施しています。火おこし体験や勾玉づくり、石甕づくりのほか、土器焼き体験や古墳めぐりなども計画していますので、ぜひご参加ください。お待ちしております!

【アクセスMAP】



【交通案内】

西鉄久留米駅から、八女(福島)行バス福島高校前下車。八女インターチェンジから国道442号経由国道3号。広川インターチェンジから国道3号。

石人山・弘化谷古墳公園 広川町古墳公園資料館

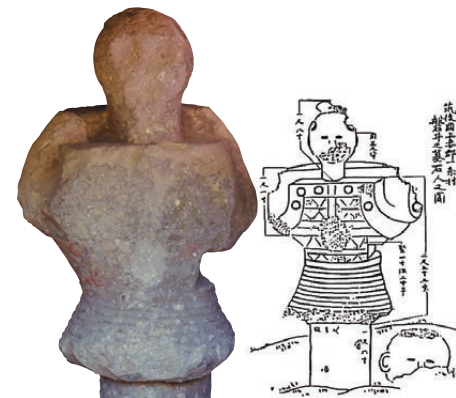
【観覧料】
無料

〒834-0122 福岡県八女郡広川町大字一条1436-2(裏表紙MAP①②) / TEL:0942-54-1305
開館時間:9時~17時(入館は16:30まで) / 休館日:月曜日(祝日の場合はその翌日)・年末年始



家形石棺

屋根の上にある幾何学文様。これは全国で最も古い装飾古墳の1つです。優美でありながら、繊細。筑紫君一族の首長が眠る「王の棺」です。



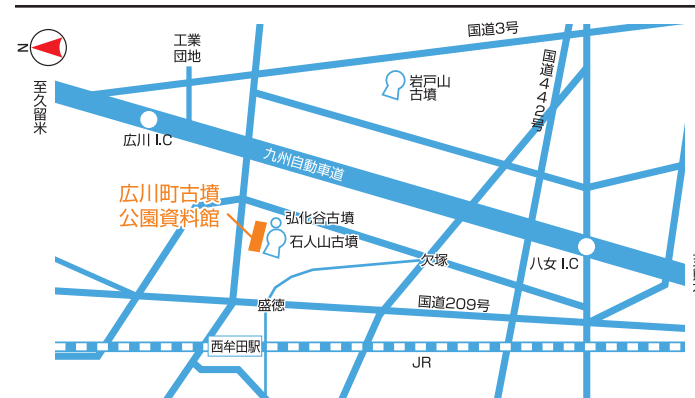
石人山古墳に眠る主を悪霊から守るために立てられた石人。約1,500年もの間、ずっとその役目を守り続けています。最近まで地域の信仰の対象であったので、なでられて顔がツルツルに!

【広川町古墳公園資料館】

見所は、弘化谷古墳の装飾壁画。実物大レプリカに色鮮やかな原始絵画がたくさん描かれています。双脚輪状文という珍しい文様は、要観察! 全国4例しかない珍しいもの。筑紫君一族が火の国と婚姻関係を結び始めたことを表す貴重な史料です。



【アクセスMAP】



装飾古墳公開は お見逃しなく。 毎年、春と秋、 福岡県下で一斉に

資料館のレプリカで見る壁画の本物を、古墳の地下に潜って一度は見てみたい。ガラスで守られた向こうの空間に、壁画が見える! 日程は要チェックです。